

家族で防災に取り組みましょう

災害はいつ起きるかわかりません。被害を最小限に食い止めるためには、日頃からの備えが大切です。この洪水・地震ハザードマップを活用し、いざというときのためにどう行動するかを家族で話し合っておきましょう。また、洪水・地震ハザードマップを片手に、実際に避難場所・避難所まで歩いてみて、避難時に危険な場所がないか確認しましょう。

- ①連絡方法の確認
- ②非常持出品・備蓄品の確認
- ③家の中や周辺の対策
- ④ハザードマップで避難の必要性を確認
- ⑤避難場所・避難所まで実際に歩いてみる



地域ぐるみで取り組む防災・減災

災害発生時には、大和高田市をはじめ、警察・消防などの防災関係機関が全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断・断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、対応が非常に困難な事態が予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。日頃から地域の自主防災組織を結成して、防災知識を身につけることや、いざというときの役割分担を決めるなどして、地域の防災力を高めておきましょう。



要配慮者(災害時要援護者)について

要配慮者とは、年齢や障がい、言葉の違いなどによって災害発生時の対応に何らかのハンデを負っている人々のことです。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人の方々などが該当します。地域で協力しあいながら、近所の要配慮者の安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

高齢者・病人 ●おぶって安全な場所まで避難する。 ●複数の介助者で対応する。	目の不自由な方 ●声をかけ情報を伝える。 ●誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩先をゆっくり歩く。
肢体の不自由な方(車椅子) ●階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。 ●介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。	耳の不自由な方 ●話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。 ●手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

非常持ち出し品・備蓄品の準備 ※感染症対策にも十分注意しましょう

災害の危険が迫っているときは、すぐに避難しなければいけません。避難する場合に備えて、リュックサックなどに必需品をまとめ、持ち出しやすい場所に保管しておきましょう。



非常持ち出し品

避難する場合に備えて、リュックサックなどにまとめて持ち出しやすい場所に保管しておきましょう。

食料	救急・安全対策	貴重品
☐ 飲料水(1人1日2〜3リットルを目安) ☐ 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など) ☐ 携帯食(チョコレート、キャンディーなど) ☐ 粉ミルク、液体ミルク、哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合)	☐ 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など) ☐ 包帯、ガーゼ、ばんそうこう ☐ 傷薬、消毒薬 ☐ 持病のある方の薬、お薬手帳 ☐ ヘルメット、防災ずきん ☐ ホイッスル	☐ 現金(小銭) ☐ 預貯金通帳、印鑑 ☐ クレジットカード類 ☐ 健康保険証 ☐ マイナンバーカード、免許証など(本人確認できるもの)
衣類など	日用品など	
☐ 衣類(厚手の物と薄い物) ☐ 下着類 ☐ タオル、毛布 ☐ 手袋、軍手 ☐ 寝袋 ☐ 雨具	☐ ポリ袋(ビニール袋) ☐ 新聞紙 ☐ ろうそく、ライター ☐ ナイフ、缶切り ☐ ティッシュペーパー ☐ ウエットティッシュ ☐ 懐中電灯(予備電池)	☐ 携帯ラジオ(予備電池) ☐ 携帯電話(充電器・バッテリー) ☐ 筆記用具(油性マジック) ☐ 洗面用具 ☐ メガネ ☐ マスク ☐ 使い捨てカイロ ☐ 紙おむつ ☐ 生理用品 ☐ 布ガムテープ ☐ ロープ ☐ 地図(ハザードマップ)

備蓄品

日頃から、一週間分の食料と飲料水を備蓄品として常備しておきましょう。

食料	燃料・日用品など	
☐ 飲料水(1人1日3リットルを目安) ☐ 米(レトルトのご飯なども便利) ☐ 缶詰、菓子類 ☐ 粉ミルク、液体ミルク、離乳食	☐ カセットコンロ ☐ 予備のガスボンベ ☐ 毛布、寝袋 ☐ ブルーシート	☐ 割り箸 ☐ 衣類 ☐ 新聞紙 ☐ 簡易トイレ ☐ 布製ガムテープ ☐ キッチン用ラップ ☐ なべ

備蓄・消費・補充を繰り返す

ローリングストック(循環備蓄)を心がけましょう

ローリングストック(循環備蓄)とは、普段から使用する食材、加工品を多めに買って置き、使ったら使った分だけ買い足していくことで、常に一定量の食料を家庭に備蓄しておく方法のことを言います。この備蓄方法を行うことで、いざというときにも日常生活に近い食生活を送ることができます。

